

CHAPTER

# 2

第2章

## 函館市の観光を 取り巻く状況

- |                      |    |
|----------------------|----|
| 1 国内外の観光の動向・現状       | 04 |
| 2 函館観光の動向・現状         | 05 |
| 3 現状から見えてくるこれからの函館観光 | 07 |



## 01 国内外の観光の動向・現状

## 国内人口減少による観光市場の縮小

日本の総人口は、令和4年(2022年)10月1日現在で1億2,494万人。平成21年(2009年)から減少局面に入り、2052年には1億人程度になると予測されています(国立社会保障・人口問題研究所)。長期的に見ると、日本人の旅行者数は減少が予想されます。

## 旅行者数はコロナ禍の減少から回復傾向

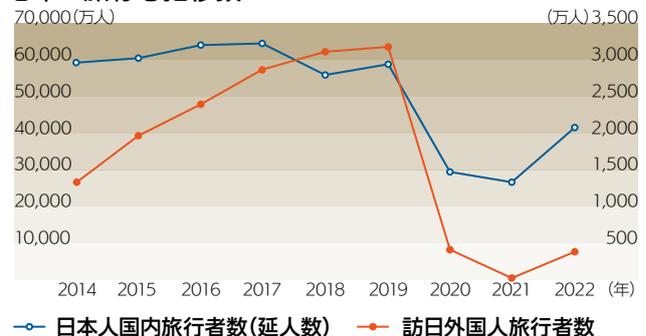
日本人国内旅行者数(延人数)は年間5億人～6億人で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年(2020年)と令和3年(2021年)は2億人台まで落ち込みました。

訪日外国人旅行者数は令和元年(2019年)に過去最高の3,188万人に増加していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響は国内観光客以上に大きく、令和3年(2021年)には年間25万人にまで減少しました。

このように、観光産業は疫病発生や天災などの影響を受けて、利用客が大きく減ることがあるというリスクを抱えています。

令和4年(2022年)以降、観光客は全世界的に大きく回復しており、今後も成長が期待されます。

## 日本の旅行者推移数

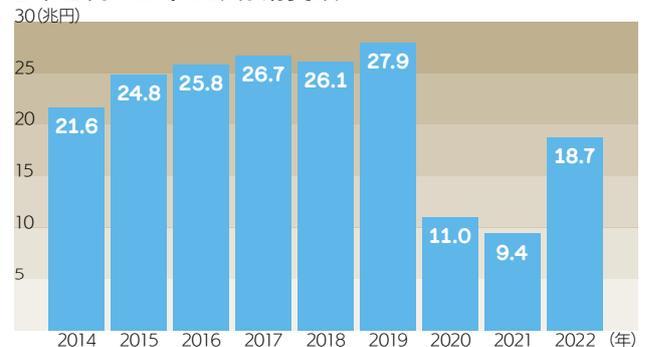


資料：日本人国内旅行者数「旅行・観光消費動向調査」(国土交通省)  
訪日外国人旅行者数「訪日外客数の動向」(日本政府観光局)

## 旅行消費額の減少は幅広い産業に影響

日本国内における旅行消費額の推移をみると、訪日外国人観光客による消費拡大などの影響もあり令和元年(2019年)には27.9兆円まで増加しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で観光客が激減したことに伴い旅行消費額も減少し、観光に関わる幅広い産業が大きな影響を受けました。

## 日本国内における旅行消費額

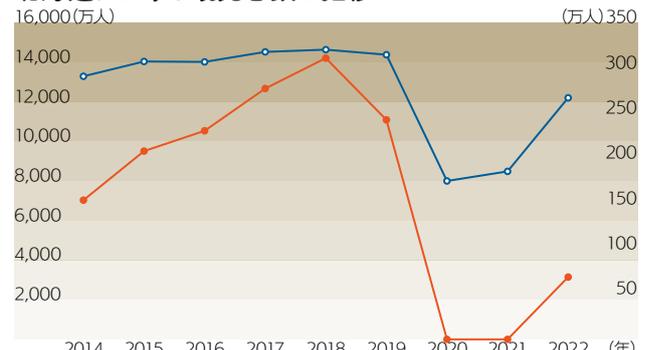


資料：「旅行・観光消費動向調査」(国土交通省)

## 北海道の観光客も回復傾向

北海道の観光入込客数(延人数)と訪日外国人来道者数の推移をみると、全国と同じく新型コロナウイルス感染症の影響から令和2年度(2020年度)～令和3年度(2021年度)に大きく減少しています。訪日外国人来道者は平成30年度(2018年度)に過去最高の312万人まで増加しており、今後の回復が期待されます。

## 北海道における観光客数の推移



資料：「北海道観光入込客数調査報告書」(北海道)

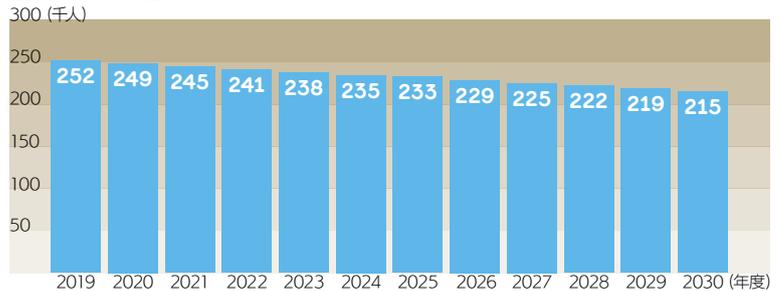
## 1 函館市の観光の現状

## 人口減少による産業の活力低下, 担い手不足

函館市の人口は昭和59年(1984年)1月の322,530人をピークに減少を続けており, 令和5年(2023年)3月末の人口は242,467人となっています。

函館市の将来人口は, 国立社会保障・人口問題研究所の推計によると, 令和7年(2025年)で23.3万人, 令和12年(2030年)で21.5万人と, 人口減少は今後も続く予測されていることから, 人口減少に伴う市内産業の活力低下や担い手不足が懸念されています。

函館市の定住人口



資料:2022年度までは各年度末の住民基本台帳人口(函館市)。2025・2030年度は国立社会保障・人口問題研究所による推計。中間年は人口減少率を一定と仮定して補完した。

## 回復が期待される函館市の観光入込客数

函館市の観光入込客数は, 北海道新幹線の開業効果から平成28年度(2016年度)に560万人を超えました。しかし, 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて令和2年度(2020年度)と令和3年度(2021年度)には大きく減少し, 市内の観光産業をはじめ取引がある関連産業が大きな影響を受けました。

来函外国人宿泊客数についても, 平成28年度(2018年度)に55万人泊まで増加するなど順調に推移していましたが, 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて令和2年度(2020年度)から大きく減少しました。

こうしたなか, 令和4年度(2022年度)からは国内観光客・訪日外国人観光客ともに徐々に回復し, 令和5年(2023年)には台湾との定期航空路線や海外からのクルーズ客船も再開するなど, 函館を訪れる観光客の復活が期待されています。

函館市における観光入込客数の推移



資料:「来函観光入込客数推計」(函館市)

函館港へのクルーズ船入港実績



資料:函館市

## 観光入込客数の上半期への集中

函館市の月別観光入込客数(2017~2019年度の平均)をみると, 5月(桜やゴールデンウィーク)と8月(夏休み・お盆休み)がピークとなっており, 上半期の割合が63%と高くなっています。

季節による入込の偏りは, 市内の観光事業者の経営の不安定さの一因となっています。

## 2 函館市の観光資源

### 多くの人が楽しめる定番観光地

函館市を代表する観光資源としては、函館山、五稜郭公園、金森赤レンガ倉庫、西部地区の異国情緒あふれる街並み、湯の川温泉、トラピスチヌ修道院などが定番スポットとして知られています。

東部地区には、活火山「恵山」、水無海浜温泉、函館市縄文文化交流センター（国宝の「中空土偶」）、大船遺跡・垣ノ島遺跡（世界文化遺産に登録）などがあります。

### バラエティ豊かな新しい観光資源

平成28年（2016年）の北海道新幹線の開業に前後して、函館市内では多くの観光資源が新設、リニューアルしました。

交通関連では、函館空港国際線ターミナルや函館クルーズターミナルが開業。観光・MICE<sup>\*用語解説P.7</sup>施設では、キラリス函館・HAKOVIVA（ハコビバ）・函館アリーナが誕生、旧函館区公会堂が改修工事

を終えてリニューアルオープンしました。食の関連では、酒蔵やワイナリーが新設されています。

また、南茅部地区の垣ノ島遺跡・大船遺跡を含む北海道・北東北の縄文遺跡群が、令和3年（2021年）に世界文化遺産に登録されました。

こうした魅力的でバラエティ豊かな観光資源を活かした観光振興が今後期待されます。

## 3 函館観光の評価

### 市区町村魅力度ランキングで全国トップ3の常連

ブランド総合研究所が発表する「地域ブランド調査」の市区町村魅力度ランキングで、函館市はトップ3の常連になっています。2006年のランキング発表以来、2007年に一度4位になっただけで、ほかの年はすべて3位以内に入っています。

2014年からの10回分の調査結果をみると、半分

の5回で函館市が全国1位の評価を受けています。2022年と2023年は3位となっていますが、再び1位に返り咲くことが期待されます。また、観光意欲度については3位以内、食品想起率<sup>\*1</sup>については5位以内と、いずれも高い評価を得ています。

\*1 食品想起率：提示した各地域名について、「購入したい商品」を最大3品目まで自由記述で回答してもらいスコア化した数値。

### 外国人向けガイドブックでも高い評価

ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン（改訂第6版）では、「函館山からの眺望」が三つ星スポット（わざわざ旅行する価値がある）と評価されています。

2020年に発売された改訂第6版に新たに掲載されたスポットとしては、「函館朝市」が二つ星、「金森赤レンガ倉庫」が一つ星と評価されています。



## 1 函館市の観光客の状況

### 新型コロナウイルス感染症の影響からの観光客の回復

函館市の観光客数は、令和元年(2019年)までは、国内外ともに増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、令和2年(2020年)と令和3年(2021年)は国内外ともに観光客数は大きく減少し、観光産業と関連する幅広い産業が大きな影響を受けました。

令和4年(2022年)からは国内観光入込客数は徐々に回復。令和5年(2023年)5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行すると、函館市を訪れる観光客は、国内観光客を中心に、コロナ禍前に近い水準まで回復し、今後は訪日外国人観光客の回復が期待されます。

## 2 今後の函館観光に求められる取組み

### 観光客の満足度を高める商品づくり

これからの函館観光は、人口減少による観光市場の縮小や、多様な価値を持つ訪日外国人観光客の増加を背景に、厳しい競争環境に置かれていきます。

函館市は、多くの方が楽しめる定番観光資源、歴史文化などの学びの場となる観光資源など、多様な観光資源を有しており、こうした観光資源は国内外

で高い評価を得ています。

こうした観光資源を活用したアドベンチャートラベル<sup>\*用語解説P.iii</sup>や、富裕層向けの商品づくりを進め、より質の高い観光メニューを提供し、観光客の満足度を高め、観光消費額を向上させることが求められています。

### 訪日外国人観光客の誘客などによる繁閑差是正の取組み

函館市の年間の観光入込客数は上半期が多く、下半期が少ないため、1年を通して見たとき、観光事業者の経営を不安定にしているとともに、夏の繁忙期においては、このままいくとオーバーツーリズム<sup>\*用語解説P.iii</sup>を招きかねない状況となっています。

このような状況の中、海外からの観光客は徐々に回復しており、令和5年(2023年)5月には台湾との定期航空路線が再開されています。

東南アジアなど暖かい地域からの観光客は、雪を楽しみに冬の函館を訪れる割合も高く、函館観光の課題の一つである観光入込客数の季節的な偏りの是正にも貢献します。

国内観光客が減少する冬期間の観光客を増加させ、通年の観光客数を一定にすることが、観光産業の経営安定化に必要です。

### 積極的な市民参加の必要性

函館市内の観光資源を有効に活用し観光客の満足度を高めていくためには、旅行者を暖かく出迎える人材が欠かせません。

そのためには、函館市民の観光に対する理解を深め、自分たちも観光客を迎える側として、函館観光に参加してみようという機運を醸成することが必要です。